
ネタバレ

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネタ詰まり

【Nコード】

N8175H

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

私は短編を書いている自称小説家。ネタ詰まりに悩んでいた。

私はある投稿サイトに短編ホラーを投稿している自称小説家。

短編を書いてみたら、意外にあっさりと仕上がった。

投稿したら、好評だった。

生来すぐに調子に乗る性格なので、すっかり嬉しくなってしまった。

悪乗りして、「毎日更新します」などと宣言までした。

最初は快調だった。

次々に溢れ出て来るストーリー！

天才だ。天才だよ。間違いない。

私って、天才！

そこまで自惚れた。

今思えば大馬鹿者である。

化けの皮はすぐに剥がれ落ちてしまった。

一週間でネタが尽きた。

次の一週間で誤魔化しが効かなくなった。

更にその次の一週間で、人の小説をパクって少々手を加えたものすら厭しくなった。

同サイトの人達に気づかれたのだ。

評価してくれる人も次第にいなくなった。

サイトの中の雑談室で、私を批判している人もいた。

「パクリ女王だ」

と。

その通りなので、反論も出来ない。

いや、「女王」ではないが。

しばらく悩む日々が続いた。

何でそんな事で真剣に悩んでるんだ？

突然、何もかも馬鹿馬鹿しくなった。

そっだよ。

「ごめんなさい」

の一言ですむじゃん。

そう決断した私は、雑談室で「降参宣言」をし、謝罪した。

多くの人は、私を慰めてくれた。

しかし、1人、そうではない人がいた。

「パクッた作品を書いた人にリアルで謝罪しに行け」

えええ？

「それはお互い無理がありましたよう」

と書いたが、その人は、

「俺もパクられた。俺は別にかまわないから、俺に謝罪に来い」

と手がつけられない事を主張し出した。

私は仕方なく、

「私のマイページに連絡先を送って下さい。どこかでお会いしましょう」

と書き込んだ。

数日後、その人からメッセージが送られて来た。

タイトルは「許さない」。

ドキドキしながら開封して読んだ。

「ウツソだよーん！ 別に何とも思っていないから、これからも頑張ってるね」

私はこの男をリアルに「ホラー」してやろうと決心した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8175h/>

ネタ詰まり

2011年1月16日09時24分発行